



水田 恒一 議員

### 高額講師料について

#### 問

講師やタレントを招いての行事を催す際の費用が高すぎる。今日の厳しい財政状況の下で、例年行事だからといった甘えは許されない。名前の人を集めるといった安易な方法はやめるべきではないか。

ここ数年の行事で、招いたタレントや講師に支払った金額を示してほしい。

#### 答

中村市長

著名人、とりわけ芸能タレントの名前にすぎた講演等は、確かに人集めの効果は否定できないが、それが一過性のものにとどまるなら、本末転倒といっても決して過言ではないと考える。

イベント開催が間接的であり、市民に経済的に還元され、地域住民にやる気と元気が起こり、さらにはその機運が住民福祉の向上と市の活性化につながるのであれば、成果として評価できると考える。

しかし、今日の極めて厳しい財政状況下では、行政主導型はもはや不可能と言わざるを得ない。したがって、今後は事業経費の全部または一部を受益者や民間団体等の支援を得ながら、できる限り継続したい。

行事の趣旨やテーマにふさわしい講師等の選考は当然であるので、広く市民の声も聞くなど工夫を凝らしたい。

#### 答

中山地域事務所  
産業建設課長

旧中山町の例では、特産品の中山栗の消費拡大とPR、ひいては町のイメージアップを図ることを目的に、なかやま栗まつりを開催している。その栗まつりに合わせ、文化に親しむ音楽イベントを開催し、ゲスト歌手として平成十五年度歌手田川寿美、百九十九万五千円で総額四百二十万二千円、平成十六年度、歌

手神野美伽、三百三十万円、総額五百万円、平成十七年度、歌手山本讓二、二百六十二万五千円、総額四百九十九万八千円の実績であり、平成十八年度はゲストは未定であるが、五百万円の予算計上である。

なお、毎年この栗まつりイベント会場には、地元グループの特産品の出店販売により、売上額は約五百八十万円で、町内の観光施設の日祭日の四〜五倍の売上があり、経済の循環システムからも費用対効果はあると考えている。

### ジュース等自販機の災害時における活用について

#### 問

災害時に清涼飲料水等を無料で被災者に提供できるジュース等の自動販売機を、市庁舎や避難場所への設置を要望する関係企業があれば交渉してはどうか。

また、各種情報を市民に提供できるタイプの自販機もあると聞く。設置要望があれば検討する用意はあるか。

#### 答

中村市長

災害発生時の食料や生活必需品・飲料水等の確保は、行政が備蓄に努めることが基本であるが、それには限度があり、市内流通在庫による備蓄や大量調達が可能の小売業者との災害時応援協定の締結、促進も必要であることは全く同感である。

さらには、市民各自においても最低生活を確保できる緊急物資の家庭内備蓄や共同備蓄を推進していただくことも極めて重要である。

また、このような対策を講じていても、なおかつ物資不足の事態に陥った場合、県を初め周辺市町等にも救援を要請することになると思う。



災害時対応が求められる自販機

しかし、大災害発生時は、その状況次第では十分な備蓄物資の持ち出しが困難となり、救援物資もなかなか届かないこともある。とりわけ水は生命の源であり、欠かすことのできないものである。その補完手段として、食料品メーカーの自販機内飲料水の自販機によって提供される飲料水の無料提供は、非常に有効な手段の一つであると考えている。

### その他の質問事項

- ・携帯等の活用による緊急通報体制を確立してはどうか
- ・子ども達の安全対策について
- ・保健センター調理室の障害者調理台設置について
- ・障害者自立支援法施行について
- ・各種団体の補助金について